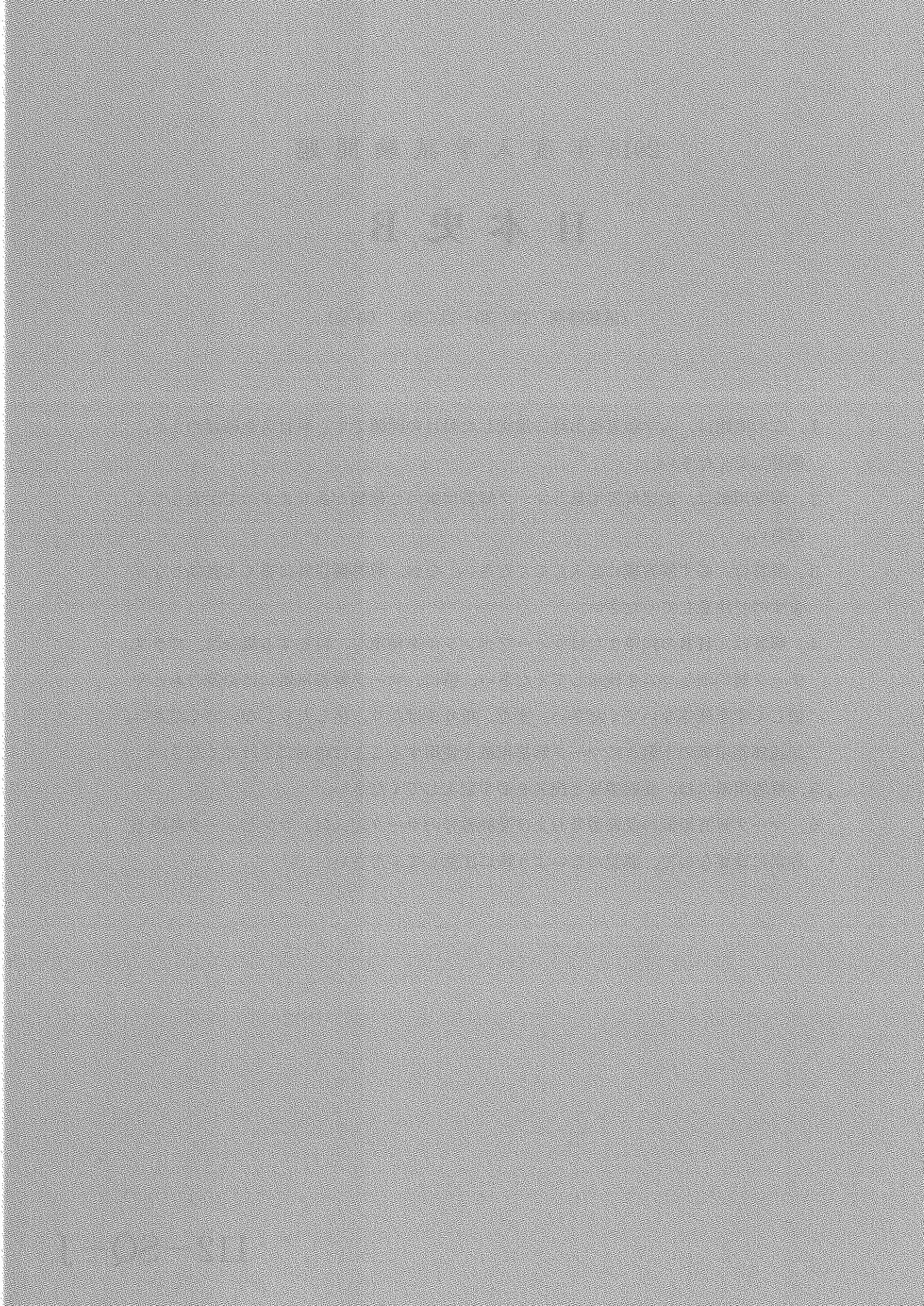


## 2015 年度 入学 試験 問題

# 日本史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、**HB**の鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
6. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。



I 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1は記述解答用紙に答えなさい。  
問2～問9はマーク解答用紙にマークしなさい。(30点)

南北朝の内乱も、足利義満が室町幕府の3代将軍となるころには収まってきた。義満は、有力な国人らを<sup>①</sup>  とよばれる直属軍とするとともに、さまざまな手段を用いて守護たちの勢力をそぐことに努めた。幕府の統治機構も中央・地方を通じて徐々に整備され、政務の中心を担う管領には、<sup>②</sup> 細川・・畠山の3氏が交代で任命された。また、幕府は、その財政を支えるため、高利貸を営んでいた  や酒屋への課税をはじめとする多様な財源から資金を調達しようとした。

この室町時代には、農業や商工業も一定の発展をみた。農業においては、土地の生産性を向上させる集約化・多角化が図られ、灌漑施設の整備や水稻の品種改良も進められた。農業の生産性の向上に伴い農村に商品経済が浸透していくにつれ、商工業も発達し、加賀の絹織物、備前の刀、河内の鍋など各地で特産品も生産されるようになった。また、製塩業においては、海面より高い位置にある塩田に海水をくみあげて乾燥・濃縮させる  法が普及した。

幕府が安定した足利義満の時代には、建築・絵画・文学・芸能などの各分野において、北山文化とよばれる、公家文化を取り入れながらも武家を中心とする文化が形成された。<sup>⑤</sup> また、この時代には、民衆の地位の向上を背景として、民衆が参加して楽しむ新しい文化も誕生した。<sup>⑥</sup>

しかし、義満の死後、6代将軍  が専制的な政治を行ったことを契機に將軍の権威は揺らぎ、幕府は弱体化していく。そして、1467年に始まる応仁の乱により戦国時代に突入することとなった。その後の約100年間は戦乱の続くいわゆる下剋上の時代であり、多くの戦国大名が興亡を繰り返した。彼らは、支配下においた国人や地侍の収入額を統一的な基準で把握し、その収入額に見合った一定の軍役を負担させることで、軍事制度の基礎を固めた。これを  という。そして、軍事力の基盤となる領国の繁栄をもたらすべくさまざまな施策を講じたのである。<sup>⑧</sup>

また、この時代には、地方の国人たちがその権益を守るため、しばしば国一揆を結成した。山城の国一揆がその代表例であるが、加賀の一向宗門徒が国人と協力して守護の  を倒した加賀の一向一揆もその1つといえる。

問1 文中の空欄  ～  に入るもっとも適切な語・人名を漢字で答えなさい。

問2 下線部①に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 義満は、大内義弘を討伐し、さらにその後、山名氏清も攻め滅ぼした。
- b 義満の法号は、道義である。
- c 義満は、死後に太上法皇の称号を受けた。

問3 下線部②に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 室町幕府は、京都の警備や刑事裁判を行うため、武者所を設置した。
- b 室町幕府の地方機関として、奥羽には一時、奥州管領が設けられた。
- c 鎌倉府は、設置当初は関東8カ国のみを管轄したが、後には12カ国を管轄するようになった。

問4 下線部③に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 幕府は、関所では関銭、港湾では津料などよばれる通行税を徴収した。
- b 京都五山の僧侶は、課税や献金などの負担を、幕府から免除されていた。
- c 幕府が内裏の造営を行う際は、守護を通さずに段銭の徴収を行った。

問5 下線部④に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 関東から九州に至る広範な地域で三毛作が行われるようになった。
- b 応仁の乱以降は、地方においても三斎市が一般的となった。
- c たきぎや炭を売る大原女、鮎を売る桂女など女性の行商人の活躍も目立つようになった。

問6 下線部⑤に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 金閣の建築様式には、和様も取り入れられている。
- b 日本の水墨画の基礎は、五山僧の道慈や成忍によって築かれたとされる。
- c 東大寺を本所とする観世座の世阿弥は『風姿花伝』を著わした。

問7 下線部⑥に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 『文正草子』や『酒吞童子』をはじめとする仮名草子が成立した。
- b 宗祇は『菟玖波集』を撰し、正風連歌を確立した。
- c 風流踊りとかぶき踊りが結びつき、しだいに盆踊りとして定着した。

問8 下線部⑦に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 戦国大名は、寄親・寄子制を採ることにより、鉄砲や長槍などを用いた集団戦法を可能にしたとされる。
- b 戦国大名のなかには、今川氏や武田氏など守護代や国人から大名になった者も多かった。
- c 分国法に見られる喧嘩両成敗の規定は、鎌倉幕府法における規定と同じものである。

問9 下線部⑧に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 戦国大名は、新たに征服した土地に検地役人を派遣して実地調査を行い、耕作地の面積や収穫量を検地帳に登録する検地を、しばしば行った。
- b 戦国大名のなかには鉱山開発を行う者もあったが、それは精錬技術や採掘技術を進歩させ、特に金や銀の生産量が急増した。
- c 戦国大名は、領国内の経済活動を盛んにするために、宿駅や伝馬の整備、楽市の保護などに努めた。

II 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1、問6は記述解答用紙に答えなさい。問2～問5、問7、問8はマーク解答用紙にマークしなさい。(30点)

江戸の町人地の行政は、町奉行を頂点に組織化されていた。町奉行が管轄したのは、<sup>①</sup>武家地、<sup>②</sup>寺社地を除いた町人地であり、町人に関して行政、司法、警察など広範な領域における支配を行った。町奉行は3名の時期もあったが通例2名で、南町奉行所と北町奉行所において [ 1 ] 交代で執務した。町奉行は寺社奉行、勘定奉行と合わせて三奉行とよばれ、評議機関である [ 2 ] の構成員であった。

<sup>③</sup>町奉行は、町役人の最高位である樽屋、奈良屋、喜多村の三家の [ 3 ] を通じて町人地を支配した。その [ 3 ] の監督下で、町人地の行政を担当したのが町名主である。町名主の業務を補佐するため、地主・家持による五人組が組織され、その中から輪番で [ 4 ] が出された。地主・家持は、本来の意味における町人であり、町を自治的に運営すると同時に、町人としての公租・公課をすべて負担した。また、町の自治に要する経費として [ 5 ] を負担した。

江戸の標準的な町割りでは、通りによって一辺60間の正方形に土地を区画し、四辺の通りから奥行き20間の土地に家屋を建て、中央の一辺20間の正方形の土地を空地として残した。しかし17世紀中期からは、江戸の人口増加により、この空地にも家屋が建てられるようになった。通りに面した表店とよばれる家屋に対して、通りから本戸を入った路地に面したこの家屋は裏店とよばれた。

<sup>⑤</sup>表店は、地主・家持を中心とした町人が居住し、主に店舗として使用された。それに対して、裏店の住民の中心は、家屋を借りて住む裏店借であり、棟割長屋とよばれる狭小な家屋に居住して、振売・棒手振とよばれる行商人や日雇いで働く日用など、その日稼ぎを職とする者が多数を占めた。裏店借は公租・公課の負担がなかった代わりに、町の自治に参加することはできなかった。

その後18世紀後半には、農村の商品生産の発展による本百姓の階層分化や、年貢諸役の過重、天災などにより、農村から都市への人口流入が加速化した。江戸においても、この農村からの人口流入は裏店借の貧困層の増加をまねき、町の住民の階層分化を進行させることになった。1787年に全国の都市で相次いだ [ 6 ] の打ちこわしは江戸にも及び、下層民による打ちこわしが発生した。

問1 文中の空欄  ～  に入るもっとも適切な語を漢字で答えなさい。

問2 下線部①に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 町人地の占める割合は，他の城下町と同様であり，江戸の面積のほぼ半分を占めていた。
- b 町人地の人口は，江戸の人口の7割から8割程度を占めていた。
- c 町人地は，武家地と木戸などで分けられ，往来も制限されていた。

問3 下線部②の町奉行について，幕府は江戸以外の要地にも町奉行を置いていた。次のうち，幕府が町奉行を置いていなかったところを1つ選び，その記号をマークしなさい。

- a 大坂      b 京都      c 名古屋      d 駿府

問4 下線部③の三奉行の説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 江戸において，町奉行は町人地，寺社奉行は寺社地，勘定奉行は武家地を管轄した。
- b 幕府の制度上，三奉行は同格の存在であり，ともに旗本から任命された。
- c 三奉行はいずれも，所管する範囲において行政だけでなく裁判も行った。

問5 下線部④の五人組は，江戸などの都市だけでなく，農村においても制度化されていた。次のうち，農村における五人組の説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 五人組はふつう，土地を所有する本百姓5戸で編成された。
- b 五人組の各戸は，年貢の納入や犯罪の防止について連帯責任を負った。
- c 五人組の強化のため，五人組以外の結・もやいなどの村民の組織は禁じられた。

問6 下図には、下線部⑤の裏店の日常の生活が描かれている。下図に関する次の説明文の空欄  ～  に入るもっとも適切な語を漢字で答えなさい。



この図は、滑稽本作者  の『浮世床』の挿絵である。通りに面して木戸があり、裏店の並ぶ路地に通じている。図の左端には、『浮世床』の舞台である、頭髪の結い上げなどを行う店である  の一部が見えている。木戸の上部中央にある四角いしるしは、この奥に  があることを示している。裏店の路地には、この  のほか、便所、ごみ溜めなど住民が共同で使用する設備があった。

問7 下線部⑥の本百姓の階層分化の説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 幕藩体制の基礎を支えた本百姓は、豪農と貧農・小作人へと分化していった。
- b 豪農は、田畑を抵当にした金融により、質流れという形で田畑を集積した。
- c 貧農・小作人が富農層の不正を追及する闘争である惣百姓一揆が頻発した。



問 8 下線部⑦の農村から都市への人口流入に対する幕府の施策として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 寛政の改革において、幕府は農村出身者の帰村を促進するために、多種の商品作物の生産を奨励して農村の産業の振興を図った。
- b 江戸に集まる無宿人への対策として、老中の松平定信は、町奉行の遠山景元に命じて、石川島に人足寄場を設けさせた。
- c 貧困層の不安をあおり、江戸の治安を乱した町奴などのかぶき者を取り締まるため、火付盗賊改などの新たな組織が整備された。

III 次の史料を読み、下記の設問に答えなさい。問1～問3、問5、問6、問12は記述解答用紙に答えなさい。問4、問7～問11はマーク解答用紙にマークしなさい。

(40点)

【史料1】

第一条 両締約国ハ相互ニ清国及韓国ノ独立ヲ承認シタルヲ以テ該二国孰レニ於テモ全然侵略的趨向ニ制セラルルコトナキヲ声明ス然レトモ両締約国ノ特別ナル利益ニ鑑ミ即チ其利益タル大不列顛国ニ取りテハ主トシテ清国ニ関シ又日本国ニ取りテハ其清国ニ於テ有スル利益ニ加フルニ韓国ニ於テ政治上竝ニ商業上及工業上格段ニ利益ヲ有スルヲ以テ両締約国ハ若シ右等利益ニシテ列国ノ侵略的行動ニ因リ若クハ清国又ハ韓国ニ於テ両締約国孰レカ其臣民ノ生命及財産ヲ保護スル為メ干涉ヲ要スヘキ騒動ノ発生ニ因リテ侵迫セラレタル場合ニハ両締約国孰レモ該利益ヲ擁護スル為メ必要欠クヘカラサル措置ヲ執リ得ヘキコトヲ承認ス

(出典：『日本外交年表竝主要文書』)

【史料2】

第五条 露西亜帝国政府ハ清国政府ノ承諾ヲ以テ  口、 並其ノ附近ノ領土及領水ノ租借權及該租借權ニ関連シ又ハ其ノ一部ヲ組成スル一切ノ權利、特權及讓与ヲ日本帝国政府ニ移轉讓渡ス露西亜帝国政府ハ又前記租借權カ其ノ効力ヲ及ホス地域ニ於ケル一切ノ公共營造物及財産ヲ日本帝国政府ニ移轉讓渡ス  
(略)

第六条 露西亜帝国政府ハ長春(寛城子)  口間ノ鉄道及其ノ一切ノ支線並同地方ニ於テ之ニ附属スル一切ノ權利、特權及財産及同地方ニ於テ該鉄道ニ属シ又ハ其ノ利益ノ為メニ經營セラルル一切ノ炭坑ヲ補償ヲ受クルコトナク且清国政府ノ承諾ヲ以テ日本帝国政府ニ移轉讓渡スヘキコトヲ約ス  
(略)

第九条 露西亜帝国政府ハ薩哈噠島南部及其ノ附近ニ於ケル一切ノ島嶼並該地方ニ於ケル一切ノ公共營造物及財産ヲ完全ナル主權ト共ニ永遠日本帝国政府ニ讓与ス其ノ讓与地域ノ北方境界ハ北緯  ト定ム

(略)

第十一条 露西亜国ハ日本海・「オコーツク」海及「ベーリング」海ニ瀕スル露西亜国領地ノ沿岸ニ於ケル  ヲ日本国臣民ニ許与セムカ為日本国ト協定ヲナスヘキコトヲ約ス

(出典：『日本外交年表並主要文書』)

【史料3】

- 一、今回欧洲ノ大禍乱ハ、日本国運ノ發展ニ対スル大正新時代ノ天祐ニシテ、日本国ハ直ニ挙国一致ノ團結ヲ以テ、此天祐ヲ享受セザルベカラズ。
- 一、此天祐ヲ全ウセンガ為ニ、内ニ於テハ比年囂々タリシ廢減稅等ノ党論ヲ中止シ、財政ノ基礎ヲ強固ニシ、一切ノ党争ヲ排シ、国論ヲ世界ノ大勢ニ随伴セシムル様指<sup>③</sup>導シ、以テ外交ノ方針ヲ確立セザルベカラズ。
- 一、此戦局ト共ニ、英・仏・露ノ團結一致ハ更ニ強固ニナルト共ニ、日本ハ右三国ト<sup>④</sup>一致團結シテ、茲ニ東洋ニ対スル日本ノ利權ヲ確立セザルベカラズ。

(出典：『世外井上公伝』)

【史料4】

第一号 (略)

第一条 支那国政府ハ獨逸国カ山東省ニ関シ条約其他ニ依リ支那国ニ対シテ有スル一切ノ權利利益讓与等<sup>⑤</sup>ノ処分ニ付日本国政府カ獨逸国政府ト協定スヘキ一切ノ事項ヲ承認スヘキコトヲ約ス

(略)

第三号 (略)

第一条 兩締約国ハ将来適當ノ時機ニ於テ漢冶萍公司ヲ兩國ノ合弁トナスコト並ニ支那国政府ハ日本国政府ノ同意ナクシテ同公司ニ属スル一切ノ權利財産ヲ自ラ処分シ又ハ同公司ヲシテ処分セシメサルヘキコトヲ約ス<sup>⑥</sup>

(出典：『日本外交年表並主要文書』)

問1 空欄  ~  に入るもっとも適切な語を漢字で答えなさい。

問2 下線部①の騒動の中には民衆蜂起も含まれる。【史料1】以前に生じた民衆蜂起で、清国で生じた事件と朝鮮で生じた事件をそれぞれ1つ答えなさい。

問3 【史料1】を縮結した内閣の外務大臣は誰か。その氏名を漢字で答えなさい。

問4 【史料1】に関する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

a 政府内部では、ロシアとの協調政策を推進しようとするグループと、イギリスと同盟してロシアに対抗すべきとするグループとに分かれていた。

b これは1905年に改定され、適用対象地域がインドまで拡大することとなった。

c イギリスは、日本がロシアと戦争せず、ロシアを牽制することを期待していた。

問5 【史料2】の調印について、この講和を斡旋した人物の氏名を答えなさい。

問6 下線部②は、ある鉄道の支線であるが、この鉄道（本線）は何鉄道と呼ばれていたか。その鉄道名を漢字で答えなさい。

問7 【史料3】は、元老会議に出席できなかった井上馨が、元老である  と首相  にあてたものである。空欄  と  に入る人名の組み合わせとして正しいものを一つ選び、その記号をマークしなさい。

a A = 松方正義            B = 桂太郎

b A = 山県有朋            B = 大隈重信

c A = 桂太郎              B = 山本権兵衛

d A = 大山巖              B = 西園寺公望

e A = 西園寺公望          B = 寺内正毅

問 8 下線部③に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 日露戦争後，生糸，綿布などの輸出は増加したが，原料綿花や軍需品，重工業資材の輸入が増加したため，貿易収支はほぼ毎年大幅な赤字となっていた。
- b 政府は鉄道建設などの積極的な公共事業を行ったため，日露戦争後の恐慌を克服することができた。
- c 政府は日露戦争中に戦時非常特別税として増税や新税を設けて課税したが，戦後に新税を廃止し元の状態に戻したため，税収を下げてしまった。

問 9 下線部④の三か国に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 日露戦争終了後，イギリスはフランスとの間で英仏協商を，ロシアとの間で英露協商をそれぞれ締結した。
- b 日露戦争後，日本とロシアの関係は好転し，ロシアは日本の北満州における権益を承認し，さらに，両国の内蒙古の勢力圏を取り決めた。
- c 日露戦争後，日本はフランスと日仏協約を締結し，フランスとの間でアジアにおける勢力圏・権益の相互承認を行なった。

問10 下線部⑤に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 日本は下関条約で山東省の権益を取得していたが，三国干渉によりこれを放棄していた。
- b 日本は四カ国条約の効力に基づいて中国と条約を締結し，山東省の権益を中国に返還した。
- c 第一次世界大戦が勃発すると，日本は中国におけるドイツの根拠地である威海衛を占領した。

問11 下線部⑥に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 八幡製鉄所は，鉄鉱石を大冶鉄山から輸入していたが，この鉄山を経営する会社が漢冶萍公司である。
- b 日本政府は，漢冶萍公司に借款を与えた。
- c 漢冶萍公司は，鞍山製鉄所を設立した。

問12 【史料1】から【史料4】の時代におけるアメリカ合衆国政府の対外政策の変遷及び日本のアジア政策に対するアメリカ合衆国政府の要求について150字以内（句読点を含む）で論じなさい。



